慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	バイオベンチャーの研究開発の外部依存とグローバル・アライアンス・マネジメント
Sub Title	
Author	長田, 悦子(Osada, Etsuko) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1757号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1757

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	浅川研究会	学籍番号	80128172	氏名	長田　悦子

（論文題名）

バイオベンチャーの研究開発の外部依存と グローバル・アライアンス・マネジメント

(内容の要旨)

バイオテクノロジーの研究開発に関して、日本のバイオベンチャーを広くサーベイしたところ、日本企業として大変異色で私の研究テーマによくマッチした経営を行っている「そーせい」というバイオベンチャーに着目した。研究所を自前で持たないで、グローバルなネットワークの構築と知の移転にエネルギーの大半を割いている。これまでの日本企業には見られないタイプの企業である。そこでそーせい 1 社を深く追跡してみた。そして事例報告書であるケースを書き、それを基に、以下の結論を導いた。

バイオテクノロジーのような日進月歩でテクノロジーが進歩し、更にハイリスクな激しい競争環境において、企業は自社のみの単独の E&D 活動だけでは生き残っていけない。外部のナレッジの活用はイノベーション能力を高めるために重要な要素である。企業は自前主義・自国主義を脱却して、スピードとリスク分散を求めて、自社の強みを更にのばし、弱みを補完するために他社と提携していく。スピード重視の環境下にあって、グローバルに点在し、ますます進化するテクノロジーやすぐれた知識を持つネットワークにアクセスし、アライアンスを組むことによる「コラボレーション」と「ラーニング」が R&D 活動で大きなウエートを占めている。「コラボレーション」と「ラーニング」という「ナレッジ･マネジメント」がこの R&D マネジメントにとって重要な戦略であり、経営資源や企業内外の能力の活用による知識のコア・コンピタンスの概念が変わろうとしている。

いかなる企業も自社のみではバイオの専門性は賄えない。ネットワーク型組織の形成がバイオビジネスの成功の秘訣となってくる。ネットワークへの知のインプットとアウトプットを組織がどう支援するか、その際に、知識は認識・識別・選択・共有・移転・吸収・同化という知の連鎖による変換プロセスを経て、新たなる付加価値の創造が可能となる。
先端技術の開発においては、小規模でニッチなベンチャー企業が先頭を切って産業や経済の流れをリードしていくことが可能である。 企業はネットワークに存在する情報・知識を獲得する際には，内部と外部の接点に立つゲートキーパーを通した吸収能力が重要であり、組織学習や知識創造を目的にした企業間のネットワークは「知識の連鎖」を形成していく。

グローバル化と技術革新のスピードにあったネットワークを築きやすく、知の移転がフレキシブルに可能であるバイオテクノロジーにおいて、 イノベーションの所在は流動的で進化する組織間のネットワーク上にある。先端技術の研究開発を行う企業が成功にたどり着くために、本社をその産業の中心におく必要はなく、本国でつくった優位性を世界中に広げるというグローバル展開が成功への道のりではなくなっている。ゆえに視野をグローバルな center of excellence に広く目を向け、①世界中に拡散した新しい能力と革新的な技術のナレッジを識別しアクセスし、②それを統合して新しいビジネスチャンスに結び付け、③効果的でフレキシブルあるバーチャルなネットワークによって、このイノベーションを向上させることが出来る。